

静岡県言語・聴覚・発達障害教育研究会

発行日 平成 29 年 7 月 5 日

担当 〒438-0804

磐田市加茂 1026 番地

磐田市立豊田北部小学校

通級指導教室(LD 等)

TEL (0538)32-3857

Fax(0538)34-4739

会 報

第 522 号

磐田市立豊田北部小学校 荒川義則

特別な支援を要する児童への対応、通常学級における特別支援教育の在り方、インクルーシブ教育、授業のユニバーサルデザイン化といった言葉や用語をよく見聞きするようになりました。また、平成 28 年度 4 月 1 日より、障害者差別解消法が施行されました。こうした流れの中、磐田市における 3 教室目となる LD 等通級指導教室「すまいる北部」が、本校に新設され 3 年目となりました。特別支援教育における磐田市北地区の拠点的な視点から、学校運営を進めていく上で重要な教室であると考えています。

児童一人一人がもつ課題の見取りや実態把握、特別な支援を要する児童への具体的な対応、誰もが分かる・できる授業へのアプローチなどに関して校内外で研修する機会も増えていくことが予想されます。磐田市は中学校区で小中一貫教育を本格実施しています。そこで目指す「学びの実感を味わえる授業づくり」を進めていく中、本校では「学ぶ喜び・分かる楽しさが味わえる授業づくり」を継続して取組、特別な支援を要する子供たちも分かる・できるという視点からユニバーサルデザインの視点を取り入れた実践をさらに深めています。

特別支援教育を推進することは、すべての子供のためであり、様々な課題を抱えている保護者と共に具体的な対応の向上にもつながっているという側面をもっています。そういった意味でも、通級指導教室の果たす役割は、今後ますます重要となってくると考えています。



すまいる北部



通級指導教室の指導 書くことが苦手

LD等通級指導教室には「書くことが苦手」な児童が、通級することが多くあります。「書くこと」には、様々な力が必要です。苦手となっている原因を探り、通級指導教室では指導を考えていきます。



書くことが苦手

読めなくて書けない

読めなくて書けない子は、まず、読めるようにします。

読むためには**音韻処理**と**意味処理**が必要です。**音韻処理**とは文字を見て音に変換する能力です。**意味処理**とは文字の集まりで単語を認識し、言葉の意味を理解する能力です。

文字の形—音(手拍子等)—意味(イラスト)をつなげて指導することがあります。

ひらがなだけでなく、漢字も読むことが大事です。漢字の方が意味とつながりやすく平仮名や片仮名に苦戦する子もいます。

教科書を使って学習するため、読めないことで正しく理解できず、理解する力があっても学習でつまづくことがあります。読み上げれば理解できるようであれば、家庭に協力してもらって、事前に教科書を読んでおいてもよいかもしれません。DAISY図書という読み上げ教科書は、申請すればダウンロードできます。

読めるのに書けない

書くためには、**視覚認知**と**運動感覚**が必要です。**視覚認知**とは線の集まりである文字を形として認知する能力です。実際に書く字の形や間違いからどんな特徴があるか探ります(エラー分析)。認知様式の違いから間違い方も様々ですが、象形文字のように形に意味を持たせて覚えたり、形をバラバラにして部首を覚えてから、言語化して組み合わせ覚えてたりすることが覚えやすいようです。形は大体あっているのに細かい部分で違う場合は、間違い探しをすることで、細部を見ることに慣れるように指導することもあります。

運動感覚に課題があると姿勢保持ができなかったり、体のバランスが悪かったりします。また、不器用さがあり、鉛筆を上手にもてないということもあります。感覚機能を育てるプログラムを考えることも必要だと思います。通級では、ボールや棒、ラダーなどを使った粗大運動も活動に取り入れています。また、手先を使った作業をすることもあります。

「特別支援教育」は**共生社会の形成に向けて、インクルーシブ教育システムの構築**のために、必要不可欠なものであり、「**共生社会**」とは、「**誰もが相互に人格と個性を尊重し合い、人々の多様な在り方を認め合える全員参加型の社会**」であると言われていきます。(平成24年7月中央教育審議会初等中等教育分科会報告)

障害のある子供のためだけの特別支援教育ではなく、共生社会の担い手であるすべての子供たちにとって必要なのではないのでしょうか。そのために担当者は、まず、保護者や担任の先生方に、通級する児童がどうして困っているのか、その子のもつ能力の特徴(特性)を伝え、理解していただくことが大事だと感じています。それは、通級する児童に関わる担任の先生方の姿が、周りの子供を共生社会の担い手に育てるのではないかと考えているからです。